

冬芽と葉痕 踊る シナサワグルミ



帽子や冠のような冬芽（とうが・ふゆめ）と顔のような葉痕（ようこん）。

一年で一番寒い季節を迎え木々の葉が落ちた真冬の「共生の森」。

静かな林をよく見ると、いろいろな表情の植物が春を待っている。案外にぎやか。



アオギリ

シンジュ

センダン



サクラ

イヌビワ

アカマガシワ

見かけた植物・生き物



アキニレ

シナサワグルミ



センダン

エノキ



サクラ

クヌギ

猛禽類に襲われた



猛禽類に襲われたドバト 羽以外なにもない



ヒヨドリ



残り少なくなったノイバラの実を食べる メジロ



ビワ

スイセン



2025年 大阪・関西万博会場

コガタノゲンゴロウ【初登場】



大阪府絶滅・国絶滅危惧Ⅱ類

数年に一度といわれる強い寒波が襲来中。この日は、季節的にも昆虫を見ることを期待していなかったが、大阪府の絶滅種のコガタノゲンゴロウが水面を漂っているところを発見。

環境の変化等により多くの地域から一度姿を消したコガタノゲンゴロウ。近年、全国的に確認例が増えてきているとのこと。

「共生の森」には海を越えてやって来たのでしょうか。コガタノゲンゴロウが定着しているのかどうか分かりませんが、環境が整うと、生きもの達はどこからともなくやって来ます。

カブトムシの幼虫



カブトムシの幼虫がいた。「共生の森」の土壤にカブトムシの幼虫が棲めるようになったよう。2月16日



冬毛のモコモコのタヌキ。昼間もよく見る。

見かけた生き物



ナンキンハゼを食べる メジロ



モズ



マツモムシ 2月16日



ハイイロゲンゴロウ2月16日



ショウジョウトンボ ヤゴ 2月16日



オニグモ 越冬



モズの「はやにえ」。海辺ならではのフナムシ。



越冬中のクマバチ 2月16日

第1回 共生の森育樹祭



草原が広がっていた「共生の森」は約20年間続けられてきた植樹活動により、今では、立派な林になっている場所もみられる。

今年からは、木を植える「植樹祭」から、木々の手入れを行う、「育樹祭」に移行した。

写真の背景には大きくなった木々が、手前は前年度に植栽された苗木。

これまで「共生の森」では植物の遷移に伴い、いろいろな生き物がやってきた。

「共生の森」の取り組みは新たなステージに。

見かけた 生き物・植物



カナヘビ が活動をはじめていた



ウグイス



メジロ



ヒヨドリ



ムクドリ



キンクロハジロ



ツグミ



スイセン



オオイヌノフグリ



ヒメオドリコソウ



ホトケノザ



苗木の補植



森の手入れ



野鳥観察



森のクラフト



ミニコンサート



タヌキの生息調査報告

植樹祭で植えた場所での補植や、森の手入れ、ミニコンサート、野鳥観察、クラフト、森のガイドツアー、タヌキの生息調査報告/公立大など「共生の森」を楽しむ。(参加 175名)

今年の冬は寒かったが 春は すぐそこ

ハマダイコン (アブラナ科)



ハマダイコンが咲いていた。「共生の森」では海沿いで徐々に増えてきている。種子は海流散布されるとのことなのでハマダイコンも海からやって来たと思われる。

この季節、ツマキチョウ、アオヒメハナムグリ、クマバチなどいろいろな昆虫を集めている。

ハマダイコンには土壤中の塩分除去効果があるとのことで、東日本大震災のあと東北の海岸の農地で植えたと聞いたことがあったが、どうなったのだろう。

※写真奥の黄色いセイヨウカラシナは植生の遷移により少しずつ分布の範囲を狭めている。

セイタカシギ



セイタカシギが数羽いた
過去には繁殖の記録もあるとのこと



タシギ しきりに餌を食べていた



ツマキチョウ

キムネクマバチ

アオヒメハナムグリ



ハクセキレイ



オオバン

見かけた生き物・植物



アカメガシラ



ノイバラ



アキグミ



マガワ



オランダアイリス



ヤマトシジミ



キタキチョウ



シオカラトンボ



ショウジョウトンボ



アオモンイトンボ



モクズガニ 稚ガニ



メダカ



ハマウドが伸びてきた



まだ葉がでていない木々も

その他：モンシロチョウ・モンキチョウ・ルリシジミ・ギンヤンマ (O写真あり) ツツドリが 鳴いていた

樹幹流 (じゅかんりゅう)



雨の中、樹の幹を樹幹流が流れていた。森林に降る雨で地面に届くものは、大きくわけると樹冠 樹幹流をのぼるかたつむりをすり抜けたたり、枝葉に当たりながら滴下する「樹冠通過雨」と、幹を伝って地面に流れる「樹幹流」にわかれる。樹幹流は、木の幹が出す成分や幹に付着した物質、着生植物などによりその水質が雨の水質とは異なる。また樹種によって成分やPHが異なることが知られている。

写真のエノキはすべての幹からの樹幹流を根元に集めていた。かたつむりも樹幹流の成分に導かれて登っているのかもしれない。

動かない樹の樹幹流の戦略を見た気がした。

見かけた生き物・植物



ナヨクサフジ・ニホンミツバチ



ノイバラ・ホソヒラタアブ



ルリシジミ・タヌキのフン



コフキトンボ



センダン



AM10 時頃から雨

アカテガニ 今年もいた。定着しているよう。



タイリクアカネ 晩秋に多いが羽化した成虫はあまり見ない



マゲワ



シナサワグルミ



ヒルザキツキミソウ



ナヨクサフジ(白花)



ノビル



スイカズラ

雨の中の森のコンサート (グリーンパ イ大阪主催)



その他：モンシロチョウ・キタキチョウ・イチモンジセセリ・ヒメジャノメ・ショウジョウトンボ・シオカラトンボ
アオキイトトンボ・アシアイトトンボ・ギンヤンマ (の写真あり) ホオトギスが 鳴いていた

キンクロハジロ (冬鳥)



昨日は夏至、この日の堺市の最高気温は、今年最高の 35.6℃を記録。

そんな中、冬鳥のキンクロハジロが1羽 Q 池にいた。仲間の鳥たちはとくにシベリア北部に到着しているでしょう。

今年の夏は「共生の森」で過ごすつもりでしょうか。

トノサマガエル



ヤマトシジミ



ツバメシジミ



キマダラセセリ



ルリシジミ(産卵)



ネムノキ



イタドリ



ザクロ



ノラニンジン



モモ



マサキ

見かけた生き物・植物



モクズガニ



アカテガニ



ギンヤンマ



タイワンウチワヤンマ



チョウトンボ



コクワガタ



キリギリス



オオスズメバチ



1951年の統計開始以降最もはやい梅雨明けとなった今年、梅雨の期間は2番目に短かったとのこと。それに反し堺市の6月の降水量236mmは平年の1.4倍と雨の多い6月だった。

カワツルモ 【初確認】 大阪府/絶滅種



【カワツルモ/大阪府 絶滅/環境省 絶滅危惧】
 「共生の森」にカワツルモがあるという情報を昨年からいただき、花の咲くこの時季にZ池に。池の中ほどに多くの浮草が浮かぶ（左上）。岸辺を漂う水草の塊（右上）の上の藻を取り除くと糸状の水草（左下）がでてきた。花も咲いていないことから個人的にはこの日は諦めていた。一緒に来ていた Y さんが糸状の水草を持ち帰り家で観察していたところ 18 日にカワツルモの花がいたと連絡がありました。2 mm程度の大きさとのこと。こんなに小さな花だったのでですね。
 【花の写真 右下（Y さん提供）】

見かけた植物・生き物



ハマゴウ

ナンキンハゼ



イシガケチョウ

ゴマダラチョウ

ウラギンジミ タヌキ糞



ナガサキアゲハ

タイワンウチワヤンマ

マイコアカネ



コフキトンボ

ギンヤンマ

ゴマダラカミキリ

テナガエビ 【初登場】



テナガエビは生活史の中で海と川を行き来する生き物。大和川などに生息するテナガエビの卵から孵化した幼生がやってきたもの。「共生の森」と大和川や大阪湾の繋がりを実感できる。



スズエビ



モクズガニ



今年もやってきたウスバキトンボ



コハンミョウ



シロオビトリノフンダマシ
鳥のフンに擬態するクモ



チュウゴクアミガサハゴロモ
全国的に広がる外来種

コシアキトンボ 【初登場】



市街地でも見かけるトンボ。
「共生の森」にやってきた 19 番目のトンボ

ハマゴウ

府絶滅危惧Ⅱ類



昨年、車道の管理のために刈りこまれたが今年もハマゴウの花が咲いた。「共生の森」のハマゴウは今のところこの一株。

大阪湾に面した場所に生えていて、大阪湾の海流に種子が運ばれてやって来たと考えられる。

海沿いにはハマウド、ハマヒルガオ、ハマサジなど他にも海辺の植物がみられる。

「共生の森」には海からもいろいろな植物や生き物がやってくる。

カワツルモ



今月も水面に浮かぶカワツルモを確認に。予想に反して水面に浮かぶ水草はなく夏の雲が輝いていた。水中は確認できていないが8月下旬には水面のカワツルモは姿を消すよう。

見かけた生き物・植物



ハネビロトンボ



リシアカネ



マイコアカネ



フタモンアシナガバチ



ハラビロカマキリ



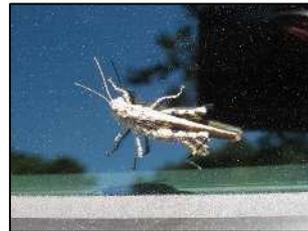
ゴマダラチョウ



アオスジアゲハ



ヤマトシジミ



ヒナバッタ



ショウリョウバッタ



クマゼミ



ツクツクボウシ



アブラゼミ



水路にはメダカがたくさんいた

台湾タケクマバチ



去年初めて確認した台湾タケクマバチ 今年の8月には花が多く咲く場所にはどこにでも

アキアカネ

府 準絶滅危惧種



海辺の開けた草地に複数のアキアカネがいた。アキアカネは暑い夏の間、気温の低い標高の高い山地などに移動することで知られている。このアキアカネはどこで生まれ、夏場どこで避暑し、どこからやって来たのでしょうか。海からやってきたのでしょうか。「共生の森」でアキアカネを見かけたのは2013年（H25）以来のこと。

トノサマガエル



トノサマガエルを初めて確認したのは2023年数が増えてきたので、カエルを餌にする生き物がやってくる可能性が広がった。

南からやってくるトンボ2種



ウスバキトンボ

ハネビロトンボ

今年はウスバキトンボが多いような印象。毎年確認されるようになったハネビロトンボも今年は数が多い。

ツクツクボウシ（ジョロウグモに捕まる）



今年はセミが少なかったような印象。ツクツクボウシは7月から10月初めまで鳴いている「共生の森」で一番長い期間鳴いているセミ

林の中の「共生の森」講座



見かけた生き物・植物



クズ



ヒガンバナ



センニンソウ



フヨウ



オトコエシ



ヌルデ



ゴマダラチョウ



ヒメジャノメ



アゲハ



ウラナミシジミ



キタテハ



アカタテハ



チョウセンカマキリ



ヒメスズメバチ



コクワガタ

その他：キタキチョウ○・イチモンジセセリ○・チャバナセセリ○・ヤマトシジミ○・ルリシジミ○・ツバメシジミ○・ウラギンシジミ・アオスジアゲハ・ナガサキアゲハ・シオカラトンボ○・ショウジョウトンボ○・マイコアカネ○・リスアカネ○・アオモンイトトンボ○・アカネガエ○（○写真あり）

ハイタカ



遠くの木々の枝にタカが止まったのが見えた。近づいてみるとハイタカだった。これまで「共生の森」で見たとの話を聞いていたが、個人的に見かけたのは初めて。冬になり「共生の森」にやってきたのか。冬は木々が葉を落とすので野鳥の姿がよく見える。他には多い順にトビ、ミサゴ、ノスリ、チュウヒなどの猛禽類を見かけた。

ミサゴ



捕まえたサカナを運ぶ ミサゴ (Yさん撮影)



ナンキンハゼ 紅葉



ハジロカイツブリ (Yさん撮影)

見かけた生き物・植物



ヤマトシジミ



ウラナミシジミ



ツマグロヒョウモン



タイリクアカネ



ハラビロカマキリ



キタキチョウ



ジョロウグモ



ヒメフンバエ



不明



ハマゴウ



ノイバラ



アキグミ



アツバキミガヨラン



オシロイバナ



カリン

リスアカネ



夏の間、高いところにとまることの多かったリスアカネ。気温が低くなり地面にとまっていた。